

# 中三国語科通信

第1号  
令和2年9月19日  
国語科3年担当  
奥池・狭間



良い所はどんどん真似しよう。  
「学ぶことは真似ぶこと」

## 『竹取物語』始めました。

三年生の新しい取り組みとして、漢文の素読と『竹取物語』の探究を始めました。漢文の素読や返り点のルール、古典文法等々、急にレベルアップした授業にも熱心に取り組んでくれているように思います。

今年度、Q&Aの代わりに新しく始めた取り組み「自己探究ノート」私と〇〇も二ターン目を迎えました。クラスも無視、コースも無視、掲載数も無視、とにかく載せたいと思った作品を片端から載せていきます！

### 私と学校

吉田直弥

学校とは、自分にとって戦場だ。厳しい坂道を越え、学校に足を踏み入れた瞬間、提出物という名の業務を果たし、授業では絶えることのない知識という名の弾丸が自分の胸に突き刺さる。それらが終われば部活動が開始、それぞれの競技で死闘を繰り広げる。

全ての戦いを終えた自分の姿はまさに、満身創痍の戦士だ。

### 私と携帯電話

児嶋真凜

私は携帯電話を持っていない。周りでは、ラインやインスタグラムなど私の知らない話で盛り上がりつつある。これらが理由で一時期すごくスマホを欲していた。しかし今はいらないと始めていた。スマホの話より、どうでもいい話も笑いに変わってくれる友達の話の方がおもしろいからだ。

### 私と欲望

菊池絃鳳

毎朝ステーキを食べたい、それが私の欲望だ。理由はいたってシンプル。美味しくタンパク質が摂れるからだ。しかし、実現するのはとても難しい。食費がかなりかかるだろう。だから私は、お金を沢山稼げるようになると思う。そのためには勉強するのが一番の近道だ。そして今、私は努力している。全てはステーキのために。

### 私と宮崎

河野孝紀

私は宮崎県を尊敬する。宮崎はその昔何の価値も観光資源もなくただ絶望するばかりであったが、数々の宮崎人によって無理矢理南国のイメージを付け、新婚旅行の聖地にも仕立て上げた。何事にもルーズな宮崎人にしてはよくやったと思う。何もなかったはずの宮崎がここまで生き残れたのは一種の特色であり、とても尊敬する。

### 私と欲望

高野晃弘

私は欲望に忠実だ。特に今、欲しい物はお金だ。理由は二つある。一つ目は、お金があれば、大体の物が手に入るからだ。二つ目は、親にお返しをしたいからだ。いつもお世話になっている家族にお返しするのは、当たり前だと思う。しかし、よく恋はお金では買えないというのが、本当にそうなのかとても気になる。

### 私と大人

平山颯太

「大人は自由だな」と考えていた時期もあった。けれど、色々な仕事に就いている大人たちを見てから一変した。「なんなら大人の方が大変だな」と。それから、大半の大人が尊敬の対象となると同時に、自由は老後まで諦めた。でも、子どもらしさが抜けて、別の感性を持って生活できるなら、それはそれで楽しいだろう。

コラムマラソン 第一回  
「ことばに傷つき、  
ことばに救われる」  
狭間 千穂

八月の終わり頃、高校の教室で、ある生徒の言葉に大変傷つき、もうこんな仕事嫌だと思ふ出来事がありました。ずっと笑えなくて、嫌だなあという気持ちが顔に表れすぎていたのでしょうか。一人の女子生徒が手紙をくれました。心のこもったことばに涙がポロリ。嬉しくて返事を使せん三枚も書いてしまいました。  
約半世紀生きた人間でもこんなに悩み、そして、十代の生徒の心からの思いやりのことばに救われた、そんな出来事でした。

### 私と家族

佐藤咲花

母はすごい。ほぼ毎日、五時前に必ず起き、私と父のお弁当を作り、駅まで私を送り、弟と父の朝ご飯を作り、やっと自由だと思えば仕事に行く時間。毎日疲れているはずなのに決して私達には言わない。そんな母を見るたびに改めてすごいと感じる。これを機に少しでも母が楽になれるよう、たくさんお手伝い等しようと思う。

裏にもあります！

私と宮崎 柴田憲斗

宮崎は食べ物が好きで美味しい。特にチキン南蛮が大好きだ。から揚げからサクサク感も失ったものの、それ以上のものを得ている。例えば何とも言えない甘酸っぱさとタルタルソースとのマッチングの良さだ。このことから学んだことがある。それは、何か新しいものを得るためには、一つ強みを捨てる必要があるということだ。

私と靴 沼田 愛

私のサブバッグはいつも重い。それは、数学やシスタンなどの小さい教科書を全部その中に入れるからだ。まるで石が肩に乗ったような感じだ。学年が上がるにつれ肩にかかる負担が大きくなる。しかしきついことばかりではない。重いということとはそれだけ知識が増えるということだ。だから重さに負けず頑張りたい。

私と音楽 四位音和

私は音楽と一緒に生きていくと言えらるるくらい音楽を聴いてい

私と学校 眞田愛里

私は、小学六年生の時に、自分で受験する学校を選んで今の学校に入学した。それより昔の幼稚園を選ぶときも、制服よりもスモックの方が楽だという理由で、自分でスモックを着る幼稚園を選んだと母に聞いた。中学校も幼稚園も自ら選択したが、選んだ理由は幼稚園の時のように単純ではない。選んだ道を一生懸命進みたい。

私と友達 眞田愛里

体力テストでソフトボール投げをする時、私と友達は自分のことを大翔平さんだと思って投げようと考えた。友達が、気持ちの大切さを教えてくれたからだ。私はその友達と一緒にいると、何者にもなれそうな気がする。その反対に、他の誰でもなく本当の自分であることができる。彼女と過ごす時間は私にとって宝物だ。

る。そして音楽が好きだ。

人生の中でさまざまなジャンルの音楽を聴いてきて、音楽は裏切らないと思う。言葉で伝えにくい

# 眞田愛里の世界

眞田さんを紹介すると同時に「存在」と書いています。その文章もとても「大切ですね。どちらも紹介しほっこりする文章です。」

のノートの魅力を彼女が紹介してくれ、その魅力を今「私と○○」を3編紹介する。今「私と○○」を3編紹介する。今「私と○○」を3編紹介する。

私と自転車 眞田愛里

私は四歳くらいの頃、小学校入学少し前の兄が乗っている小さな青い自転車に心惹かれていた。兄や友達の家の前を下り坂で自転車で遊んでいるのを見て、私も坂の上でまたいでみた。少し急な坂だったので、こげなくても速く進み、額に怪我を負った。今は成長して危険な事は分かるが、失われた度胸を取り戻したい。

私と友達 谷口仁香

私は人見知りで、友達はあまり多くはないが、とても仲の良い親友がいる。愛里ちゃんだ。彼女にはなんでも話す事ができ、悩み事や相談事はいつも家族か愛里ちゃんにしている。彼女は弱音や悪口を言わず、心も優しい。そんな彼女といると自然と笑顔になれる。これからも大好きな彼女を大切に、共に笑っていききたい。

事も歌にして伝えられるから音楽は素敵だ。

これからも辛い時に音楽に助けてもらいながら生きていこう。

私と携帯電話 田中結柳

私は、スマホを持っている。それは、連絡を取るために買ってもらったものだ。しかし、友達とラインをしたり、ゲームをしたりすることが多くなってしまった。今日はスマホをしないようにしようと思っても、少しだけとしてしま。だから、これからはもっと自分を律してスマホを触る時間を減らしていこうと思う。

私と宮崎 藤高日菜子

大人になったら宮崎を出たい、最近までそんな事を考えていた。宮崎は幸せな県ランキングが上位にもかかわらず、離婚率、自殺率のランキング上位である。全てを信じるわけではないが正直気味が悪いと思ってしまう。しかし最近はそのランキングを、大人になって自分が変えていくのも悪くないと思っ

できるだけ多くの作品を載せたくて、見づらく構成になってしまいたがご了承ください。